

色々なユーザとしての目線を強みに！

私は入省して15年、総務省でICT関連を中心に様々な業務に携わってきました。現在は教育分野でのICT活用促進の一環として学校の情報化を担当しています。このようなICTの利活用についての政策検討において重要になるのは、ユーザ目線です。

現在、多くの学生の皆さんは、日々、スマホ等を利用してSNS、音楽、動画など様々なサービスを利用されているのではないのでしょうか。教育情報化の担当として、プログラミング教育やタブレットを利用した授業を行っている小学校を訪ねると、小学生の子供達でも、先生よりPCやインターネットに詳しく、周りの子供達に教えている姿が多く見受けられます。このようにICTでは「若者」のほうがヘビーユーザであることが少なくありません。皆さんのユーザとしての目線は業務での強みになると思います。

また、親としての立場が政策に活用できる場合もあります。私には小学生の娘が一人います。教育の情報化という観点では、実際の保護者としての立場で、子供が小学校に通う日常生活の中でここにICTが活用できるのではと考えたり、娘と一緒に休日にワークショップに参加してみたりすることもあります。

さらに、ユーザの半数は女性であり、女性としての目線も政策検討に大いに役立つと思います。私はよく仕事帰りの電車の中で、夕食の献立を考えるためにレシピサイトを検索したり、ネットスーパーで買い物したりして、ICTのおかげで色々時短できています。日常のちょっとした女性目線も今後の政策に役立つと思います。

このように多様な目線を持つことは、政策検討に非常にプラスに働くと考えています。「育児」と「仕事」の両立という意味では、総務省ですでに多くの女性の先輩方が子育てもしながらも素敵に活躍されており、私自身、とても心強く感じています。

女性が働くことは当たり前になってきています。ぜひ様々な目線を持てることを強みに、総務省と一緒に働きませんか。

総務省 情報流通行政局 情報通信利用促進課 課長補佐

植松 利紗

Risa Uematsu

平成13年 4月 総務省採用
同 情報通信政策局地域通信振興課
平成14年 8月 同 情報通信政策局地域通信振興課地方情報化推進室
平成15年 8月 同 情報通信政策局情報通信政策課
平成16年 4月 内閣官房情報通信技術(IT)担当室主査
平成17年 1月 総務省情報通信政策局情報通信政策課
コンテンツ流通促進室アーカイブ推進係長
平成18年 8月 同 総合通信基盤局電気通信事業部
電気通信技術システム課番号企画室課長補佐
平成21年 4月 電気通信紛争処理委員会事務局上席調査専門官
平成25年 7月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課課長補佐
平成27年 7月 現職



総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部 事業政策課 課長補佐

小熊 美紀

Miki Oguma

平成16年 4月 総務省採用
同 情報通信政策局放送政策課
平成17年 8月 同 総合通信基盤局国際部国際協力課
平成19年 7月 同 行政評価局評価監視調査官
平成21年 7月 同 情報通信国際戦略局技術政策課研究推進室国際研究係長
平成22年 7月 同 情報流通行政局郵政行政部貯金保険課監理係長
平成23年 7月 米国留学(カリフォルニア大学バークレー校)
平成24年 7月 米国留学(ニューヨーク大学)
平成25年 7月 消費者庁消費者政策課政策企画専門官
平成27年 7月 現職

彩りのある人生を

ICT(情報通信技術)という言葉を知って、皆さんは何を想像しますか。スマホやロボットのような最先端の技術・サービスでしょうか、それとも「何それ?」といった感じでしょか。私がまだ学生だった頃、IT革命という言葉がブームになりましたが、正直、私にとっては「何それ?」という世界でした。そんな私がICTの世界—それも政策の最前線—で仕事をしているとは、当時は全く想像できませんでした。

さて、振り返ってみると、入省以来、通信、放送、郵政、国際交渉等々、様々な分野を経験してきました。特に、スマートフォンの爆発的な普及等、入省当時は想定しなかった世の中の変化が起こっている中で、次世代のICT社会の構築に向けた政策検討や消費者保護の取組等の重要課題に実際に携わることができ、非常にやりがいを感じています。また、2年間の米国留学では、国や業種を超えたさまざまな人材との知遇を得るとともに、家族と一緒に異国での生活を体験することができ、非常に良い思い出をつくることもできました。

このように恵まれた社会人生活を送ることができたのも、ひとえに家族や職場の上司・同僚など周囲の理解や支えがあったからだと思います。私の夫も職場の同僚ですが、家事や育児にも非常に協力的なので、とても助かっています。また、総務省では、ICTを活用した業務の効率化や、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方を実現する「テレワーク」の取組を推進しており、職場全体としてワークライフバランスの充実を図ろうという空気があります。まさにICTが身近なところで私たちの生活を変え、新しい世界をつくっている事例だと思えます。

- Life is like a box of chocolates - 人生、何が分かるか分かりません。私も皆さんと同じ学生だった頃、今のような彩りのある人生を送っているとは思ひもよませんでした。それができる今の環境に感謝しつつ、未来の総務省職員たる皆さまと人生に新たな彩りを加えていくことができたらと思っています。皆さまにお会い出来る日を楽しみにしています。

総務省 大臣官房 秘書課 課長補佐

椋田 那津希

Natsuki Mukuda

平成14年 4月 総務省採用
同 自治税務局市町村税課
平成14年 10月 石川県総務部地方課
平成15年 4月 同 財政課
平成16年 4月 厚生労働省労働基準局賃金時間課
平成17年 10月 同 勤労者生活部勤労者生活課
平成18年 4月 総務省自治行政局市町村課
平成19年 7月 同 行政評価局客観性担保評価PT評価監視調査官
平成20年 7月 池田市総合政策部長
平成22年 8月 総務省大臣官房総務課管理室課長補佐
平成23年 8月 同 自治大学教授
平成25年 4月 現職



総務省 行政評価局 評価監視調査官

田中 真弓

Mayumi Tanaka

平成16年 4月 総務省採用
総務省自治行政局公務員部公務員課
8月 福井県総合政策部政策推進課
平成18年 4月 総務省消防庁救急企画室
平成19年 7月 同 自治行政局行政課
平成20年 7月 同 行政管理局
平成21年 4月 同 人事・恩給局参事官室係長・参事官補佐(任用第一担当)
平成23年 7月 米国留学(コロンビア大学ロースクール)
平成24年 7月 米国留学(ハーバード大学ケネディスクール)
平成25年 6月 内閣官房社会保障改革担当室課長補佐
平成26年 1月 内閣府特定個人情報保護委員会事務局総務課課長補佐
平成27年 2月 現職

仕事も家庭も 欲張りな人生を

15年前私が総務省の門を叩いた頃は、まだ女性の先輩も少なく、これから自分ごどのようなキャリアパスを歩み、どのように仕事と家庭を両立していくのか、全くの未知数でした。ただ、説明会などでお会いした先輩方が皆仕事について生き生きと楽しそうにお話しされており、また、国と地方の双方を通じて、幅広い分野の業務に携われることに魅力を感じたことから、期待に胸を膨らませ入省したことを覚えています。

入省してからは、総務省で市町村行政や地方公務員への研修、行政評価などに携わったほか、厚生労働省や石川県、大阪府池田市への出向、期待どおり様々なフィールドで働く機会を得ました。特に池田市では、橋下知事(当時)が大阪版地方分権を進める中、市長のリーダーシップのもと、先進市として大阪府から権限移譲を受ける仕組みづくりを行うなど、行政の最前線である市町村で地方自治のダイナミズムを感じることができました。

私は今、育児休業を取得し、留学中の夫に同行してアメリカのサンディエゴで暮らしています。第一子の育休中に第二子も生まれ、3年以上休業することとなりましたが、海外で家族一緒に時間を過ごし、また仕事に復帰できることをありがたく思っています。結婚をすると、時に配偶者の海外赴任といった問題も出てきますが、そんなときに仕事を辞めることなく家庭も成立させることができるのは、制度が整っている公務員ならではの魅力です(小さな子供がいなくても配偶者の海外赴任に同行できる配偶者同行休業制度もあります。)

これから私は職場に復帰しますが、休業中に蓄えた力と経験をもって、新たな仕事に挑戦できることを楽しみにしています。今は、私の入省時と比べ仕事と家庭を両立している女性職員も多くいるので心強いです。国や地方など幅広いフィールドを活躍の場として明日の日本のあり方を考えながら、家庭も大事にしていく、そんな人生を総務省で一緒に過ごしてみませんか。

仕事も育児も留学も、全てが力になる

「10年位はとにかく色んなことをやってみよう」という思いで総務省の門を叩いてから早や10余年。その思いどおり、県庁勤務、本省での行政機関の査定や地方自治制度の運用、消防庁での災害対応、米国の2つの大学院への留学等々、入省以来様々なフィールドで職務経験を積んできました。

直近ではマイナンバー制度の導入に携わりました。マイナンバー制度は多くの主体をまきこむ一大プロジェクトであり、新たな行政機関の立ち上げや個人情報保護の仕組みの導入等を急ピッチで進めていく必要がありました。そのため、関係各所との調整に苦労しましたが、総務省で行政機関の査定を行ったときの知識や米国留学でのネゴシエーションの経験が自分を後押ししてくれました。また、総務省で得た地方自治制度についての知識や県庁での地方行政の経験がなければ、マイナンバー制度の最前線となる地方自治体との調整をうまく進めることはできなかったと思っています。

現在は育児休業をいただいています。入省当時は育休という選択肢をあまり現実的に考えていませんでしたが、子供と24時間一緒に過ごす育児は今ではしかできないことであり、温かく送り出してくれた職場には心から感謝しています。また、子を持つ母親として行政サービスのユーザーとなったこと、子育てを通じた多くの新鮮な出会いがあったことは育休中ならではの経験であり、行政官としての新たな視点を得られたと思っています。

振り返れば、入省当時の希望以上に多様な経験をしてきました。総務省は職務でも職務外でも「とにかく色んなこと」ができ、その経験全てをこの国を良いものにするための仕事に活かすことのできる職場です。結婚、出産を経て女性が「とにかく色んなことをやる」には本人の熱意、家族の理解、職場のサポートが不可欠ですが、熱意を駆り立て、十分なサポートを与えてくれる、それが総務省だと思います。